

# クリーンテック株式&グリーンボンド・ファンド (愛称:みらいEarth)

追加型投信/内外/資産複合

基準日: 2024年12月30日

## 「資産成長型」の運用状況

信託期間: 2020年2月18日 から 2050年5月11日 まで

決算日: 毎年5月11日および11月11日 (休業日の場合翌営業日)

回次コード: 3410

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

### 「基準価額・純資産の推移」

2024年12月30日現在

基準価額	14,343 円
純資産総額	69億円

#### 期間別騰落率

期間	ファンド
1か月間	+1.9 %
3か月間	+4.2 %
6か月間	-2.3 %
1年間	+13.4 %
3年間	+12.2 %
5年間	-----
年初来	+13.4 %
設定来	+43.4 %



※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。  
 ※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。  
 ※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しています。  
 ※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

### 「分配の推移」

(1万口当たり、税引前)

決算期(年/月)	分配金
第1期 (20/05)	0円
第2期 (20/11)	0円
第3期 (21/05)	0円
第4期 (21/11)	0円
第5期 (22/05)	0円
第6期 (22/11)	0円
第7期 (23/05)	0円
第8期 (23/11)	0円
第9期 (24/05)	0円
第10期 (24/11)	0円

分配金合計額 設定来: 0円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決めます。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和アセットマネジメントにより作成されたものです。当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって投資元本が保証されているものではありません。当ファンドの取得をご希望の場合には投資信託説明書(交付目論見書)を販売会社よりお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上ご自身でご判断ください。後述の当資料のお取り扱いにおけるご注意をよくお読みください。

### 「主要な資産の状況」

※比率は、純資産総額に対するものです。

組入ファンド		合計99.3%
運用会社名	ファンド名	比率
アクサ・インベストメント・マネージャーズ	アクサIMグリーンボンド・ファンド(為替ヘッジなし)*	49.8%
アクサ・インベストメント・マネージャーズ	アクサIMクリーンテック関連株式ファンド(為替ヘッジなし)*	49.6%

\*ファンド名は略称です。ファンドの詳細については、「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

設定・運用:

**大和アセットマネジメント**

Daiwa Asset Management

商号等

大和アセットマネジメント株式会社  
 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号

加入協会

一般社団法人投資信託協会  
 一般社団法人日本投資顧問業協会  
 一般社団法人第二種金融商品取引業協会

# 「予想分配金提示型」の運用状況

信託期間 : 2020年2月18日 から 2050年5月11日 まで

決算日 : 毎年5月11日および11月11日 (休業日の場合翌営業日)

回次コード : 3411

※過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

## ≪基準価額・純資産の推移≫

2024年12月30日現在

基準価額	11,399 円
純資産総額	34億円

### 期間別騰落率

期間	ファンド
1カ月間	+1.9 %
3カ月間	+4.3 %
6カ月間	-2.3 %
1年間	+13.4 %
3年間	+12.3 %
5年間	-----
年初来	+13.4 %
設定来	+43.9 %



※「分配金再投資基準価額」は、分配金(税引前)を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。  
 ※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用(信託報酬)は控除しています(後述のファンドの費用をご覧ください)。  
 ※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しています。  
 ※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。

## ≪分配の推移≫

(1万口当たり、税引前)

決算期(年/月)	分配金
第1期 (20/05)	0円
第2期 (20/11)	350円
第3期 (21/05)	400円
第4期 (21/11)	450円
第5期 (22/05)	0円
第6期 (22/11)	300円
第7期 (23/05)	0円
第8期 (23/11)	300円
第9期 (24/05)	450円
第10期 (24/11)	400円

分配金合計額 設定来 : 2,650円

※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

## ≪主要な資産の状況≫

※比率は、純資産総額に対するものです。

組入ファンド		合計99.2%
運用会社名	ファンド名	比率
アクサ・インベストメント・マネージャーズ	アクサIMクリーンテック関連株式ファンド(為替ヘッジなし)*	49.8%
アクサ・インベストメント・マネージャーズ	アクサIMグリーンボンド・ファンド(為替ヘッジなし)*	49.5%

\*ファンド名は略称です。ファンドの詳細については、「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

＜アクサIMクリーンテック関連株式マザーファンドの運用状況＞

※比率は、マザーファンドの純資産総額に対するものです。

※アクサ・インベストメント・マネージャーズが提供するデータ等を基に大和アセットマネジメントが作成したものです。

資産別構成		
資産	銘柄数	比率
外国株式	36	91.2%
国内株式	3	6.8%
短期資産等		2.0%
合計	39	100.0%

株式 規模別構成		合計98.0%
規模		比率
大型株		90.5%
中小型株		7.5%

※大型株：時価総額100億米ドル超、中小型株：時価総額100億米ドル以下。

株式 業種別構成		合計98.0%
業種名		比率
情報技術		33.0%
資本財・サービス		32.6%
素材		10.0%
公益事業		9.3%
金融		4.8%
一般消費財・サービス		2.9%
ヘルスケア		2.7%
不動産		2.5%

株式 通貨別構成		合計98.0%
通貨名		比率
米ドル		67.1%
ユーロ		21.3%
日本円		6.8%
英ポンド		2.8%

株式 国・地域別構成		合計98.0%
国・地域名		比率
アメリカ		56.6%
ドイツ		10.2%
日本		6.8%
アイルランド		5.7%
フランス		4.7%
オランダ		4.4%
台湾		3.1%
イギリス		2.8%
スイス		2.0%
その他		1.7%

組入上位10銘柄				合計32.7%
銘柄名	国・地域名	業種名		比率
ケイデンス・デザイン・システムズ	アメリカ	情報技術		3.8%
エヌビディア	アメリカ	情報技術		3.7%
シュナイダーエレクトロニクス	フランス	資本財・サービス		3.6%
ウエイスト・マネジメント	アメリカ	資本財・サービス		3.4%
ザイレム	アメリカ	資本財・サービス		3.3%
リンデ	アイルランド	素材		3.2%
TSMC	台湾	情報技術		3.1%
SAP	ドイツ	情報技術		2.9%
オートデスク	アメリカ	情報技術		2.9%
トヨタ自動車	日本	一般消費財・サービス		2.9%

※上記データは、四捨五入の関係で合計の数値と一致しない場合があります。

※業種名は、原則としてS&PとMSCI Inc.が共同で作成した世界産業分類基準(GICS)によるものです。

※個別企業の推奨を目的とするものではありません。

《アクサIMグリーンボンド・マザーファンドの運用状況》

※比率は、マザーファンドの純資産総額に対するものです。

※アクサ・インベストメント・マネージャーズが提供するデータ等を基に大和アセットマネジメントが作成したものです。

資産別構成		
資産	銘柄数	比率
外国債券	147	97.3%
国内債券	---	---
短期資産等		2.7%
合計	147	100.0%

債券 格付別構成		合計97.3%
格付別		比率
AAA		15.2%
AA		12.5%
A		33.0%
BBB		36.6%

債券 種別構成		合計97.3%
種別		比率
国債		12.1%
準国債		14.9%
国際機関債		7.1%
普通社債		63.2%

債券 通貨別構成		合計97.3%
通貨名		比率
ユーロ		65.2%
米ドル		19.9%
カナダ・ドル		7.1%
ニュージーランド・ドル		2.1%
英ポンド		1.3%
豪ドル		0.9%
スウェーデン・クローネ		0.8%

債券 国・地域別構成		合計97.3%
国・地域名		比率
フランス		16.1%
アメリカ		10.3%
イタリア		10.2%
スペイン		8.8%
オランダ		8.6%
ドイツ		8.5%
国際機関		7.1%
イギリス		6.3%
チリ		3.7%
その他		17.7%

債券 ポートフォリオ特性値	
	比率
直接利回り(%)	2.4
最終利回り(%)	3.8
修正デュレーション	6.5
残存年数	8.1

組入上位10銘柄			合計16.0%
発行体名	種別	利率(%)	比率
オランダ王国	国債	0.5	2.2%
欧州連合	国際機関債	1.25	2.1%
ドイツ復興金融公庫	準国債	4.875	1.8%
SNCFレゾー	準国債	1.875	1.7%
ドイツ連邦共和国	国債	2.3	1.6%
スペイン王国	国債	1	1.6%
イタリア共和国	国債	1.5	1.3%
チリ共和国	普通社債	4.375	1.2%
INGグループ	普通社債	1.4	1.2%
ペルサハーン・ペナービットSBSNインドネシアI	準国債	4.7	1.2%

※上記データは、四捨五入の関係で合計の数値と一致しない場合があります。

※格付別構成については、所定の基準で採用した格付けを基準に算出しています。

※種別構成は、アクサ・インベストメント・マネージャーズの分類によるものです。

※債券 ポートフォリオ特性値は、ファンドの組入債券等の各特性値(直接利回り、最終利回り等)を、その組入比率で加重平均したものです。

※以下のコメントは、アクサ・インベストメント・マネージャーズが提供するコメントを基に大和アセットマネジメントが作成したものです。

**【投資環境】**

(株式部分)

**グローバル株式市場はまちまちの展開**

グローバル株式市場で米国株はやや上昇した一方、欧州株はやや下落しました。米国の利下げ期待の高まりや米国による対中半導体規制強化への過度な警戒感の後退から欧米株ともに上昇して始まりました。月半ばにかけては、FOMC（米国連邦公開市場委員会）を前に上値の重い展開が続きました。その後、タカ派的となったFOMCを受けて欧米金利が上昇し株価は一時急落しましたが、インフレ懸念が後退し米金利上昇が一服するに伴い、米国株に連れて欧州株も下落幅を縮めました。

(債券部分)

**グリーンボンド市場は下落**

海外債券市場では、金利は上昇（債券価格は下落）しました。欧州では、ECB（欧州中央銀行）は理事会で追加利下げを決定したものの、ラガルド総裁の発言からは今後の利下げに慎重な姿勢がうかがわれたことなどから、金利は上昇しました。米国では、底堅い経済指標等を背景に、利下げペースの鈍化が意識され、金利は上昇しました。FRB（米国連邦準備制度理事会）は0.25%ポイントの利下げを実施したものの、政策金利・経済見通しを引き上げたことが金利上昇材料となりました。その他の国についても、米国金利に連れる形となりました。

このような中、グリーンボンド市場の代表的指数であるICE BofA グリーンボンド指数はマイナスのトータルリターンとなりました（現地通貨ベース）。

**為替相場は、米ドル円、ユーロ円ともに上昇**

為替市場では、円高米ドル安となりました。米ドルは、おおむね米国金利の動きに連れる展開となりました。また、日銀が金融政策決定会合において、政策金利を据え置いたことも円安圧力につながりました。

ユーロにおいても米ドルと同様の動きとなりました。

※個別企業の推奨を目的とするものではありません。

**【ファンドの運用状況】**

**月間の動き**

12月は、米国の保有株式や保有債券価格が下落したことがマイナス寄与した一方、主として外国為替市場で米ドルやユーロが対円で上昇したことがプラス寄与したことから、基準価額は前月末比で上昇しました。

**(株式部分)**

地球温暖化対策関連では、再生可能エネルギー開発のブルックフィールド・リニューアブルが、トランプ氏の米国大統領選での勝利を受け、インフレ抑制法の廃止懸念などから株価は軟調に推移しました。しかし再生可能エネルギーの発電コストは、インフレ抑制法の補助金を除いても従来の石油・ガスによる発電と比較して価格競争力があることに加え、米国におけるエネルギー需要は増加しているため、再生可能エネルギー発電への投資は引き続き増大していくと考えています。

水処理関連企業のアドバンスト・ドレナージ・システムズは、直近の決算発表で原材料コストの上昇や非住宅建設分野の低迷などにより業績予想を引き下げたことなどが投資家心理を冷やし、株価が下落しました。

一方、革新的な技術基盤関連では、世界有数の半導体メーカーであるTSMCがパフォーマンスに貢献しました。AI（人工知能）チップに対する堅調な需要を背景に、株価は底堅く推移しています。

**(債券部分)**

債券部分では、欧米の保有債券価格が下落したことがマイナス寄与したものの、主として為替市場で米ドルやユーロが対円で上昇したことなどがプラス寄与となりました。

**運用のポイント**

**(株式部分)**

株式部分では、地球温暖化対策、環境汚染防止、廃棄物処理・資源有効利用、持続可能な食糧供給、革新的な技術基盤などのテーマに着目して、これらの分野で優れた技術を有し、その技術を事業化している企業に投資を行います。

12月末時点で39銘柄に投資しています。当月は、オランダに本社を置く半導体メーカーのNXPセミコンダクターズを全売却し、米国のアナログ半導体メーカーのモノリシック・パワー・システムズを新規に組み入れました。

地域別では、米国が最も多く、次いでドイツ、日本などに投資しています。

引き続きテーマ別では、地球温暖化対策では米国の再生可能エネルギー大手のネクステラ・エナジー、環境汚染防止では水技術ソリューションを提供するザイレム、廃棄物処理・資源有効利用では米国の廃棄物処理業者ウエイスト・マネジメント、持続可能な食糧供給では農薬散布を最適化する技術の開発に取り組む米国の農機メーカーであるディア、革新的な技術基盤では米国の半導体企業エヌビディアなどの企業に投資しています。

**(債券部分)**

債券部分では、グリーンボンド、すなわち二酸化炭素の排出量削減や再生可能エネルギー発電能力の増強など、環境にやさしいプロジェクト向けの資金調達を目的として発行された公社債に投資を行います。

12月末時点で147銘柄のグリーンボンドに投資しています。通貨別ではユーロ建てが最も多く、次いで米ドル建て、残りはカナダ・ドル建て、ニュージーランド・ドル建て、英ポンド建てなどに投資しています。債券種別配分では引き続き社債に多めの保有としています。

地域別では、ユーロ圏のソブリン債に関しては、ファンダメンタルズが盤石であることからオーストリア、オランダ、スペインなどを、引き続き市場平均よりも多めの保有としています。新興国についてはリスク分散が図られることや、欧州のソブリン債と比較して高い利回りが得られることから、引き続きチリ、インドネシアなどを中心に配分しています。グリーンボンドの資金用途では、再生可能エネルギーのプロジェクトが主たる融資先となっています。

**【今後の見通し・運用方針】**

**今後の見通し**

(株式部分)

不透明感の強いマクロ環境下でも、地球環境問題に解決策を提供する企業の見通しは良好です。エネルギー転換に対する政策の後押しは一段と強まっており、主要国の大半で重要な脱炭素計画が策定されています。

欧州は、2030年までに「温室効果ガス55%削減目標」を掲げ、主導的な立場にあります。中国は2030年までに二酸化炭素排出量をピークアウトし、2060年までにネットゼロを実現する目標を策定しました。米国においては、トランプ氏の当選により将来の気候変動政策に関する不透明性が高まりましたが、国内の製造業やデータセンター向けのエネルギー需要の増加が、再生可能エネルギー分野に追い風となると考えています。また、世界中の企業においても、気候変動対策について大幅な前進がうかがえます。加えて、2022年12月の生物多様性条約第15回締約国会議では、2030年までに生物多様性の保全のための野心的な計画が示されました。

これらの目標を達成するためには、再生可能エネルギーや電気自動車などの分野に多額の投資が要求され、ファンドにとってさらなる成長機会が数十年にわたり持続するものと考えられます。

持続可能な食糧供給関連においては、穀物価格や投入コストの上昇を背景に「アグリテック（農業とテクノロジーの融合）」のニーズが高まっています。このソリューションによって収穫量を改善し農業の効率化を高めることが可能となります。また、廃棄物処理・資源有効利用関連では資源を有効活用するとともに回収や再利用を促すことにより環境への負荷を軽減しつつ、人口増加に伴う需要の拡大に対応します。

これまでの金利上昇に加え、再生エネルギーやEV（電気自動車）の需要鈍化などを背景に、過去数カ月にわたってグリーン・エコノミー関連銘柄は苦戦を強いられてきましたが、構造的な成長の原動力は確固として変わらず、現在のバリュエーションは魅力的な水準にあると考えています。一方で、グリーン・エコノミーの実現に向けて必要な、革新的な技術を提供するソフトウェアや半導体の関連企業は、自社製品に対する需要増加の恩恵を享受しています。幅広い分野で、高い技術力を有する競争優位性の高い多くの企業が、クリーンテック分野の成長トレンドを追い風に、長期的な株価上昇が期待できるとの見方を維持しています。

引き続きこれらのクリーンテック関連企業に投資することにより、地球環境を守るための政策の後押しや人々の行動の変化を背景に長期的な成長が期待できると考えています。

(債券部分)

米国や欧州でインフレが減速する中、米国では底堅いマクロ経済や堅調な労働市場を背景に、FRBはタカ派的な姿勢をとっていることから、金利動向の不透明感が高まっています。

2024年末に金利が上昇したことで、債券のバリュエーションは魅力的な水準にあります。しかし、例年第1四半期は新規発行が多いことや、インフレを巡る不透明性、米国の財政悪化懸念などを背景に、短期的には金利が高止まる可能性があります。

クレジットスプレッドは、新発債の発行が減少したことや、リスクセンチメントが上向いたことから縮小傾向にあります。全体的な利回りは魅力的な水準にありますが、新発債市場の活性化や金利のボラティリティが上昇した場合、金利上昇圧力が強まる可能性があります。

引き続き、優良なグリーンボンドへの投資を通じて安定したリターンを獲得することを目指します。

**今後の運用方針**

当ファンドは、生活の質を高めながら経済発展することを重視して、環境への取り組みを支える企業や政府に着目します。こうした企業や政府が発行する株式や債券への投資を通じて、環境関連株式投資によって得られる成長性とグリーンボンド投資によって得られる安定性を組み合わせ、長期的に優れたリターンの獲得を目指します。

※個別企業の推奨を目的とするものではありません。

◆各ファンドの略称としてそれぞれ次を用いることがあります。  
 クリーンテック株式&グリーンボンド・ファンド(資産成長型) (愛称:みらいEarth成長型): 資産成長型  
 クリーンテック株式&グリーンボンド・ファンド(予想分配金提示型) (愛称:みらいEarth分配型): 予想分配金提示型  
 ◆各ファンドの総称を「クリーンテック株式&グリーンボンド・ファンド(愛称:みらいEarth)」とします。

ケイデンス・デザイン・システムズ (アメリカ/情報技術)	米国の半導体開発用ソフトウェアメーカー。半導体企業向けに半導体や電子機器の設計作業を自動で行うツールや、半導体を構成する部分的な集積回路資産などを提供し、顧客の設計と開発のコスト削減、製品を市場投入する時間の短縮などを支援しています。
エヌビディア (アメリカ/情報技術)	米国の半導体メーカー。コンピュータのグラフィックス処理や演算処理の高速化を主な目的とするグラフィック・プロセッシング・ユニット(GPU)などのビジュアルコンピューティング技術を提供しています。
シュナイダーエレクトリック (フランス/資本財・サービス)	シュナイダーエレクトリックは電力設備メーカーです。主な製品は、自動車用充電設備、住宅用セキュリティ用品、照明スイッチなどを扱っています。電気自動車(EV)の普及に欠かすことのできない充電ソリューションを提供しています。
ウエスト・マネジメント (アメリカ/資本財・サービス)	ウエスト・マネジメントは子会社を通じて一般家庭、商工業顧客、地方自治体に廃棄物処理サービスを提供する持株会社です。廃棄物埋立地、廃棄物熱源転換設備、ごみ集積所、独立系発電所を所有及び運営し、廃棄物の回収、廃棄、運搬、廃棄物のエネルギー資源化、リサイクルサービス等を行っています。
ザイレム (アメリカ/資本財・サービス)	ザイレムは、水に関連した計測・分析技術を提供する計測機器メーカーです。水質および水理動態に関連する計測や分析技術に優れており、表層水から深海用までの各種水質計、総合観測システム、流速・流量計、多項目水質計などを手掛けています。
リンデ (アイルランド/素材)	産業用ガス及びエンジニアリング事業を展開する大手企業。産業用ガス生成装置の設計や構築を行い、各種プラントのガス生産処理サービスを提供しています。エネルギー移行に向けたグリーン水素および二酸化炭素回収・貯留システムなどのソリューションも手掛けています。
TSMC (台湾/情報技術)	TSMCは世界有数の半導体メーカーです。モバイルデバイスや車載エレクトロニクス、IoTなどといった様々な分野で同社の製造する半導体が利用されています。製造過程において温室効果ガス排出の削減を目指し、再生可能エネルギーの活用などを行っています。
SAP (ドイツ/情報技術)	企業経営ソフトウェアなどのビジネスソフトウェアの開発の他、アプリケーションソフトウェアを企業で使用する際の研修サービスやコンサルティングを提供するソフトウェア会社。
オートデスク (アメリカ/情報技術)	米国のソフトウェア企業。図形作成ソフトウェアを開発・販売しています。同社の2D・3D作図製品は、各種業界で建築設計や機械設計、地理情報システムとマッピングおよび可視化に使用されています。
トヨタ自動車 (日本/一般消費財・サービス)	乗用車やバス、トラック等の製造および販売、賃貸、修理を世界中で展開する自動車メーカー。住宅の建設・販売やプレジャーボートの製造等、自動料金徴収システムなどの高度道路交通システムの開発も行っています。子会社を通じ金融サービス事業も営んでいます。

※業種名は、原則としてS&PとMSCI Inc.が共同で作成した世界産業分類基準(GICS)の産業グループによるものです。

※個別企業の推奨を目的とするものではありません。

発行体 (種別)	主な調達資金使途(プロジェクト)											
	エネルギー 供給	インフラの 拡充	基礎インフラ 整備	生態系 多様性	エネルギー 効率	食の保全	グリーン ビルディング	再生可能 エネルギー	クリーン 輸送	廃棄物処理	水資源	土地活用
オランダ王国 (国債)		○					○	○	○			
欧州連合 (国際機関債)				○	○		○	○	○	○	○	○
ドイツ復興金融公庫 (準国債)							○	○				
SNCFレゾー (準国債)									○			
ドイツ連邦共和国 (国債)			○	○	○			○	○			
スペイン王国 (国債)								○				
イタリア共和国 (国債)				○			○	○	○	○	○	
チリ共和国 (普通社債)					○					○		○
INGグループ (普通社債)							○	○				
ペルサハーン・ペナービットSBSN インドネシアI (準国債)		○			○			○	○	○		

## 《ファンドの目的・特色》

### ファンドの目的

- ・日本を含む世界のクリーンテック関連企業の株式およびグリーンボンドに投資し、信託財産の成長をめざします。

### ファンドの特色

- ・日本を含む世界のクリーンテック関連企業の株式およびグリーンボンドに投資します。
- ・運用は、アクサ・インベストメント・マネージャーズが担当します。
- ・分配方針の異なる2つのファンドがあります。

## 《投資リスク》

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、**投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。**基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

価格変動リスク・信用リスク 株価の変動	組入資産の価格が下落した場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。 株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給等を反映して変動します。発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。 当ファンドは、特定の業種への投資比率が高くなるため、市場動向にかかわらず基準価額の変動が大きくなる可能性があります。 新興国の証券市場は、先進国の証券市場に比べ、一般に市場規模や取引量が小さく、流動性が低いことにより本来想定される投資価値とは乖離した価格水準で取引される場合もあるなど、価格の変動性が大きくなる傾向が考えられます。
価格変動リスク・信用リスク 公社債の価格変動	組入資産の価格が下落した場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。 公社債の価格は、一般に金利が低下した場合には上昇し、金利が上昇した場合には下落します。また、公社債の価格は、発行体の信用状況によっても変動します。特に、発行体が債務不履行を発生させた場合、またはその可能性が予想される場合には、公社債の価格は下落します。 新興国の公社債は、先進国の公社債と比較して価格変動が大きく、債務不履行が生じるリスクがより高いものになると考えられます。
為替変動リスク	外貨建資産については、資産自体の価格変動のほか、当該外貨の円に対する為替レートの変動の影響を受けます。組入外貨建資産について、当該外貨の為替レートが円高方向に進んだ場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。 特に、新興国の為替レートは短期間に大幅に変動することがあり、先進国と比較して、相対的に高い為替変動リスクがあります。
カントリー・リスク	投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、基準価額が予想外に下落したり、方針に沿った運用が困難となる場合があります。 新興国への投資には、先進国と比べて大きなカントリー・リスクが伴います。
その他	解約資金を手当てするため組入証券を売却する際、市場規模や市場動向によっては市場実勢を押下げ、当初期待される価格で売却できないこともあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

## その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第 37 条の 6 の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 当ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受け付けが中止となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。

## 《ファンドの費用》

### 投資者が直接的に負担する費用

	料 率 等	費 用 の 内 容
購 入 時 手 数 料	販売会社が別に定める率 (上限) <b>2.2%(税抜2.0%)</b>	購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。
信 託 財 産 留 保 額	ありません。	—

### 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

	料 率 等	費 用 の 内 容
運 用 管 理 費 用 ( 信 託 報 酬 )	年率1.144% (税抜1.04%)	運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎日計上され日々の基準価額に反映されます。
配 分 ( 税 抜 ) ( 注 1 )	委託会社	年率0.32%
	販売会社	年率0.70%
	受託会社	年率0.02%
投資対象とする 投資信託証券	年率0.4631%(税抜0.421%) ～0.5731%(税抜0.521%)	投資対象ファンドにおける運用管理費用等です。
実質的に負担する 運用管理費用	<b>年率1.6621%(税込)程度</b>	
そ の 他 の 費 用・ 手 数 料	(注2)	監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。

(注1)「運用管理費用の配分」には、別途消費税率を乗じた額がかかります。

(注2)「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせ下さい。

※運用管理費用の信託財産からの支払いは、毎計算期末または信託終了時に行なわれます。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

購入単位	最低単位を 1 円単位または 1 口単位として販売会社が定める単位
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額（1 万円当たり）
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払い下さい。
換金単位	最低単位を 1 口単位として販売会社が定める単位
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額（1 万円当たり）
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して 6 営業日目からお支払いします。
申込受付中止日	① ニューヨーク証券取引所、ロンドン証券取引所、ニューヨークの銀行またはロンドンの銀行の休業日 ② ①のほか、一部解約金の支払い等に支障を来すおそれがあるとして委託会社が定める日 (注) 申込受付中止日は、販売会社または委託会社にお問合わせ下さい。
申込締切時間	(2024 年 11 月 4 日まで) 午後 3 時まで（販売会社所定の事務手続きが完了したもの） (2024 年 11 月 5 日以降) 原則として、午後 3 時 30 分まで（販売会社所定の事務手続きが完了したもの） なお、販売会社によっては異なる場合がありますので、くわしくは販売会社にお問合わせ下さい。
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行なうために大口の換金申込みには制限があります。
購入・換金申込受付 の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情が発生した場合には、購入、換金の申込みの受け付けを中止すること、すでに受け付けた購入、換金の申込みを取消すことがあります。
繰上償還	◎ 主要投資対象とする証券投資信託のいずれかが存続しないこととなる場合には、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了（繰上償還）させます。 ◎ 次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、繰上償還できます。 ・受益権の口数が 30 億口を下ることとなった場合 ・信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき ・やむを得ない事情が発生したとき
収益分配	年 2 回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。 (注) 当ファンドには、「分配金再投資コース」と「分配金支払いコース」があります。 なお、お取扱い可能なコースおよびコース名については異なる場合がありますので、販売会社にお問合わせ下さい。
課税関係	課税上は株式投資信託として取扱われます。配当控除、益金不算入制度の適用はありません。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に NISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。 当ファンドは、NISA の「成長投資枠（特定非課税管理勘定）」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。くわしくは、販売会社にお問合わせ下さい。 ※税法が改正された場合等には変更される場合があります。

## ◀ 当資料のお取り扱いにおけるご注意 ▶

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和アセットマネジメントにより作成されたものです。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認くださいのうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していませんので、投資者のみなさまの実質的な投資成果を示すものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は資料作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。
- 分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

販売会社等についてのお問い合わせ

▶ **大和アセットマネジメント** フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00~17:00)

当社ホームページ

▶ <https://www.daiwa-am.co.jp/>

クリーンテック株式&グリーンボンド・ファンド（資産成長型）（愛称：みらいEarth成長型）

販売会社名（業態別、50音順） （金融商品取引業者名）		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商 品取引業協会
大垣西濃信用金庫	登録金融機関	東海財務局長(登金)第29号				
沖縄県労働金庫	登録金融機関	沖縄総合事務局長(登金)第8号				
九州労働金庫	登録金融機関	福岡財務支局長(登金)第39号				
京都中央信用金庫	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第53号	○			
近畿労働金庫	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第90号				
埼玉縣信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第202号	○			
株式会社埼玉りそな銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第593号	○	○		
四国労働金庫	登録金融機関	四国財務局長(登金)第26号				
静岡県労働金庫	登録金融機関	東海財務局長(登金)第72号				
しののめ信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第232号				
株式会社十六銀行	登録金融機関	東海財務局長(登金)第7号	○	○		
城北信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第147号	○			
瀧野川信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第168号				
多摩信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第169号	○			
中央労働金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第259号				
中国労働金庫	登録金融機関	中国財務局長(登金)第53号				
東海労働金庫	登録金融機関	東海財務局長(登金)第70号				
東北労働金庫	登録金融機関	東北財務局長(登金)第68号				
長岡信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第248号				
長野信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第256号	○			
長野県労働金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第268号				
新潟県労働金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第267号				
西尾信用金庫	登録金融機関	東海財務局長(登金)第58号	○			
飯能信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第203号				
平塚信用金庫	登録金融機関	関東財務局長(登金)第196号				
福井信用金庫	登録金融機関	北陸財務局長(登金)第32号				
北陸労働金庫	登録金融機関	北陸財務局長(登金)第36号				
北海道労働金庫	登録金融機関	北海道財務局長(登金)第38号				
株式会社りそな銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第3号	○	○	○	
岡安証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第8号	○			

クリーンテック株式&グリーンボンド・ファンド（予想分配金提示型）（愛称：みらいEarth分配型）

販売会社名（業態別、50音順） （金融商品取引業者名）		登録番号	加入協会			
			日本証券業協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 日本投資 顧問業協会	一般社団法人 第二種金融商 品取引業協会
株式会社埼玉りそな銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第593号	○	○		
株式会社りそな銀行	登録金融機関	近畿財務局長(登金)第3号	○	○	○	
西村証券株式会社	金融商品取引業者	近畿財務局長(金商)第26号	○			

上記の販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によって、新規のご購入の取扱いを行っていない場合や、お申込み方法・条件等が異なります。くわしくは、販売会社にお問合わせ下さい。